

参考3

30年11月16日
在宅療養専門部会

在宅療養講演会 アンケート分析

1 在宅療養講演会の現状 (参加者アンケート分析)

在宅療養講演会の開催概要

- ・本年度は4回の講演会を実施予定
- ・第3回までは実施済。第4回は11月18日（日）に実施予定。
- ・医師による在宅療養に関する講演のほか、地域包括支援センターの紹介を20分程度で実施。

【平成29年度】

	開催日	対象地区	会場	講師（敬称略）・講演テーマ	参加人数／定員
第1回	7/22（土） 14：00～ 16：00	石神井	石神井庁舎5F 会議室	すみれホームケアクリニック 医師 市場 保 テーマ『在宅で家族をみとるということ』	46／100名
第2回	9/10（土） 14：00～ 16：00	大泉	勤労福祉会館	医療法人社団 重陽さんくりにつく 理事長・院長 内田 義之 テーマ『医療と介護の賢い選択』	81／100名
第3回	11/12（日） 14：00～ 16：00	光が丘	光が丘区民センター	祐ホームクリニック平和台 医師 林 伸宇 テーマ『人生の最後までその人らしく過ごすために』	57／100名
第4回	12/10（日） 14：00～ 16：00	練馬	Coconeri研修室	メディケアクリニック石神井公園 医師 長濱 久美 テーマ『自分らしく、在宅で生きる』	58／100名

【平成30年度】

	開催日	対象地区	会場	講師（敬称略）・講演テーマ	参加人数／定員
第1回	6/17（日） 14：00～ 16：00	光が丘	光が丘区民センター	祐ホームクリニック平和台 医師 林 伸宇 ハミングバード訪看ステーション 宇田川 聡子 テーマ『家族ががんになったとき～在宅での過ごし方～』	98／100名
第2回	7/21（土） 14：00～ 16：00	練馬	Coconeri研修室	浩生会スズキ病院 医師 鈴木 小百合 テーマ『在宅医療ってなんだろう～住み慣れた家での療養をかなえるために～』	84／100名
第3回	10/28（日） 14：00～ 16：00	石神井	石神井庁舎5F 会議室	ホームクリニックのどか 医師 豊島 究 テーマ『ひとり暮らしで在宅医療を選択すること～ここまでできる在宅医療の現実～』	81／100名
第4回	11/18（日） 14：00～ 16：00	大泉	勤労福祉会館	大泉生協病院 医師 齋藤 文洋 テーマ『私の最期を生きる～ACPと幸せ度～』	／100名

アンケート概要

- 期間：H29.4.1～H30.10.18（全7分）
- アンケート回収数：463枚（うち一般区民369枚）

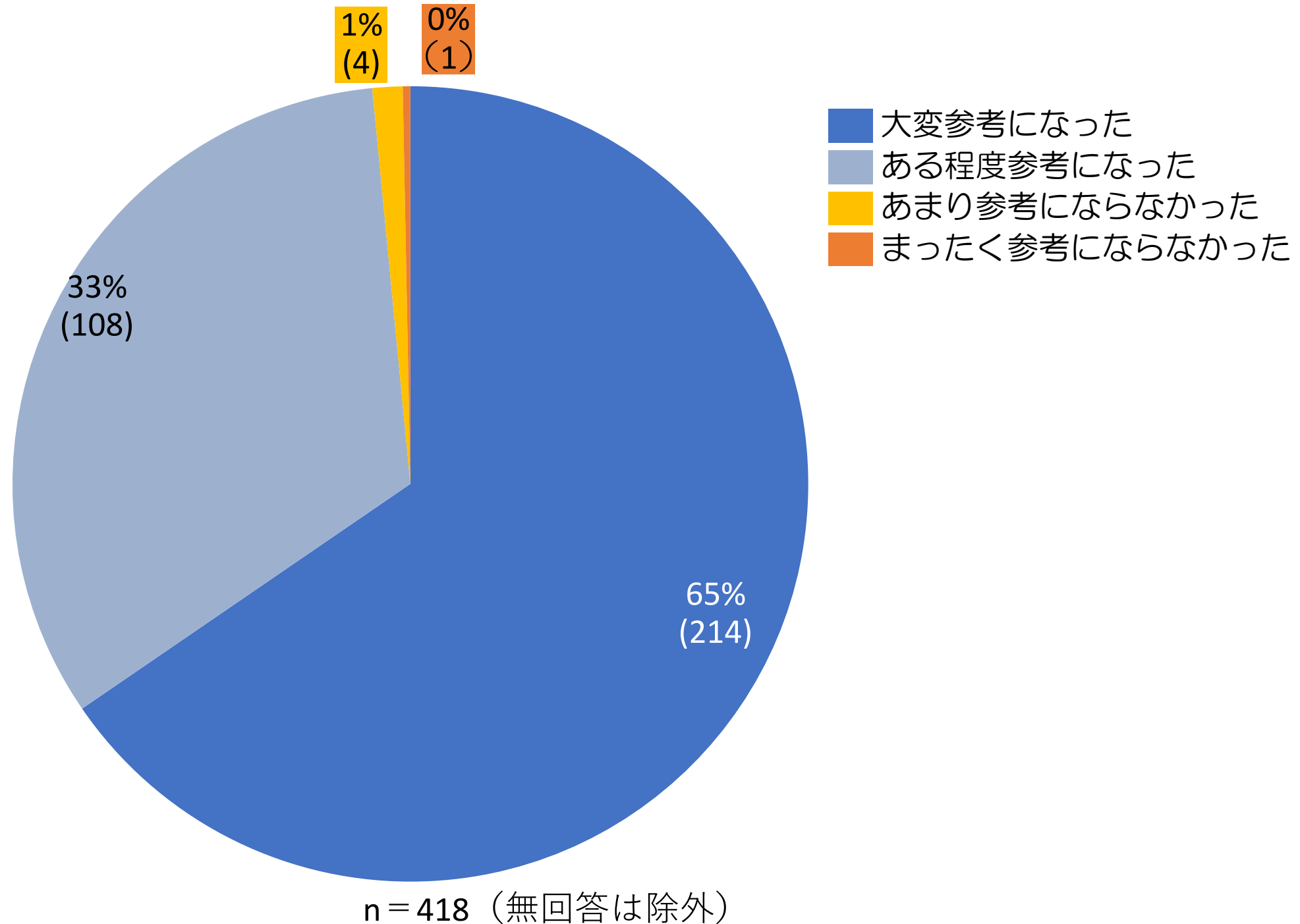
開催回	参加者数	回収数	回答率	一般区民数	一般区民の割合
H29第1回	46	44	96%	28	63%
H29第2回	81	71	88%	69	97%
H29第3回	57	50	88%	45	90%
H29第4回	58	56	97%	49	88%
H30第1回	98	89	91%	62	70%
H30第2回	84	81	96%	65	80%
H30第3回	81	72	89%	51	71%
全体	505	463	92%	369	80%

講演会の満足度

- 「大変参考になった」、「ある程度参考になった」と回答している割合が99%であり、参加者の満足度は非常に高かった。

※平成29年度の第1回～第4回、平成30年度の第1回～第3回参加者を対象に集計。以降の分析も同様。

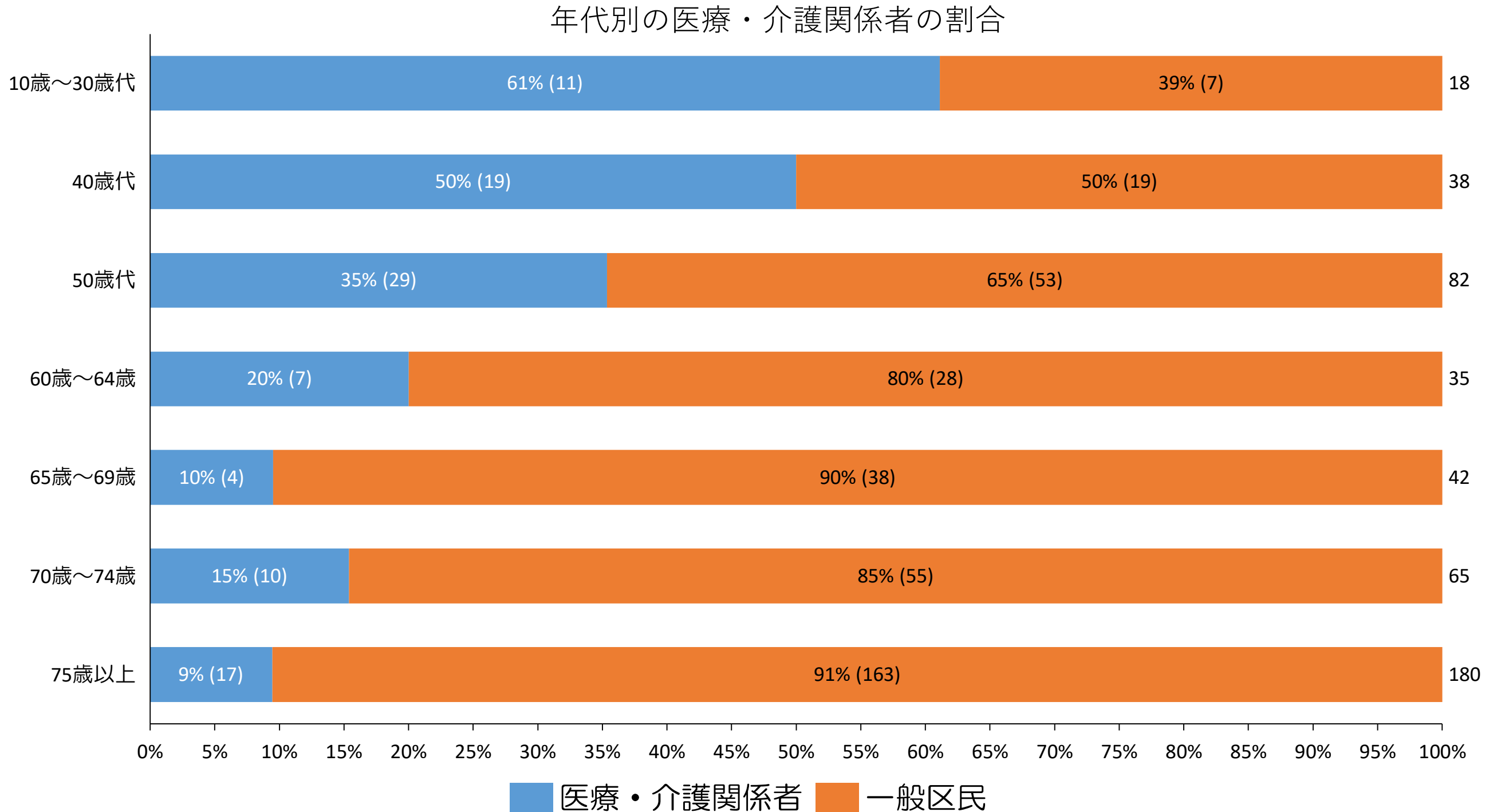
講演会の満足度



年代別の医療・介護関係者の割合

- 40歳代以下では、医療・介護関係者からの参加が約半分であり、一般区民からの参加者は10～30歳代で39%、40歳代で50%となり、非常に少ない結果となった。

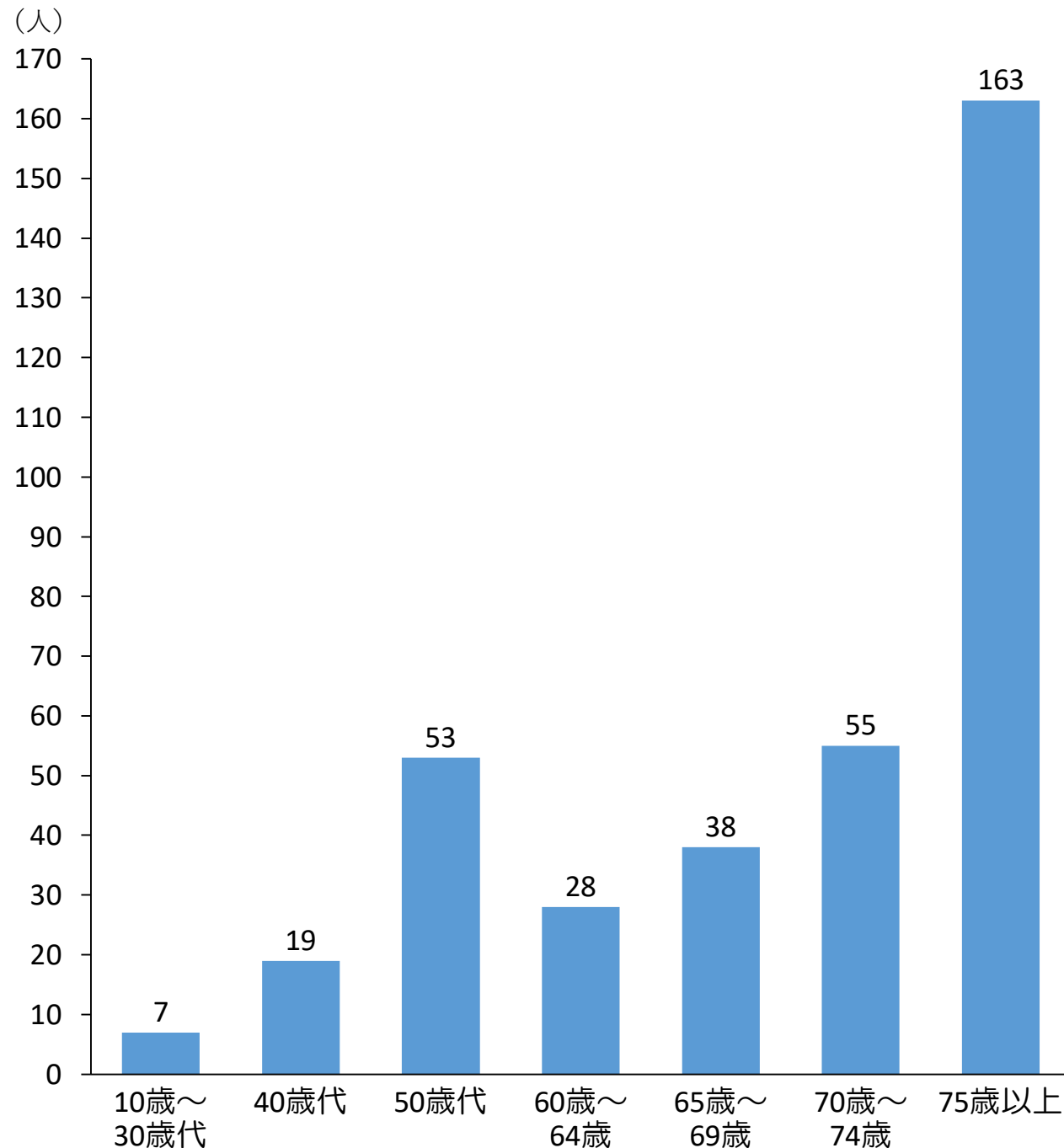
※以降の分析では、対象を一般区民に限定する。



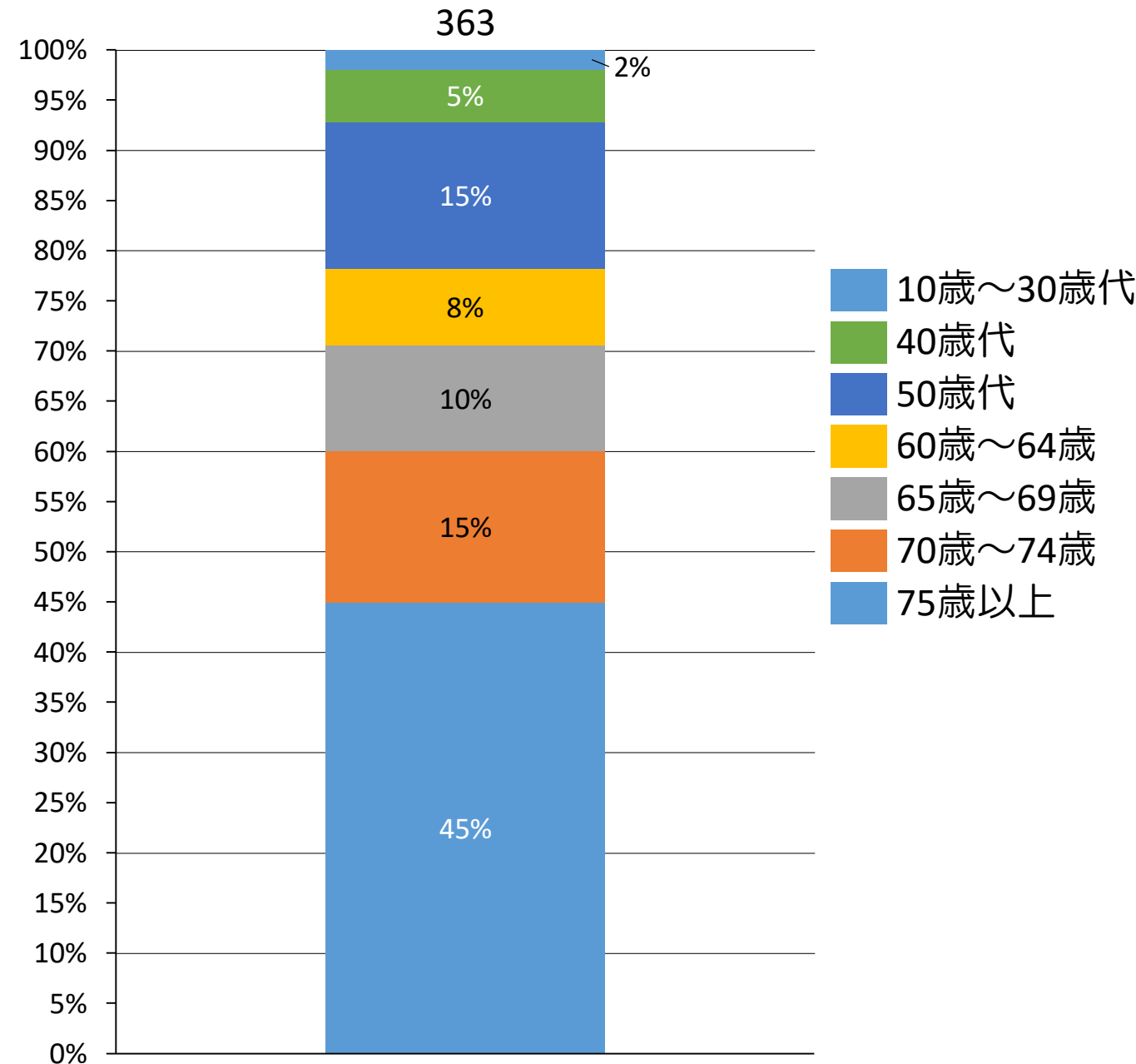
全体の参加者の状況（一般区民のみ）

- 昨年度の第1回～第4回、今年度の第1回、第2回の一般区民の参加者の合計は312名（6名年代未回答）。
- 75歳以上が133名と最も多く、続いて50歳代の51名となっている。

年代別の参加者数



参加者の年代別割合

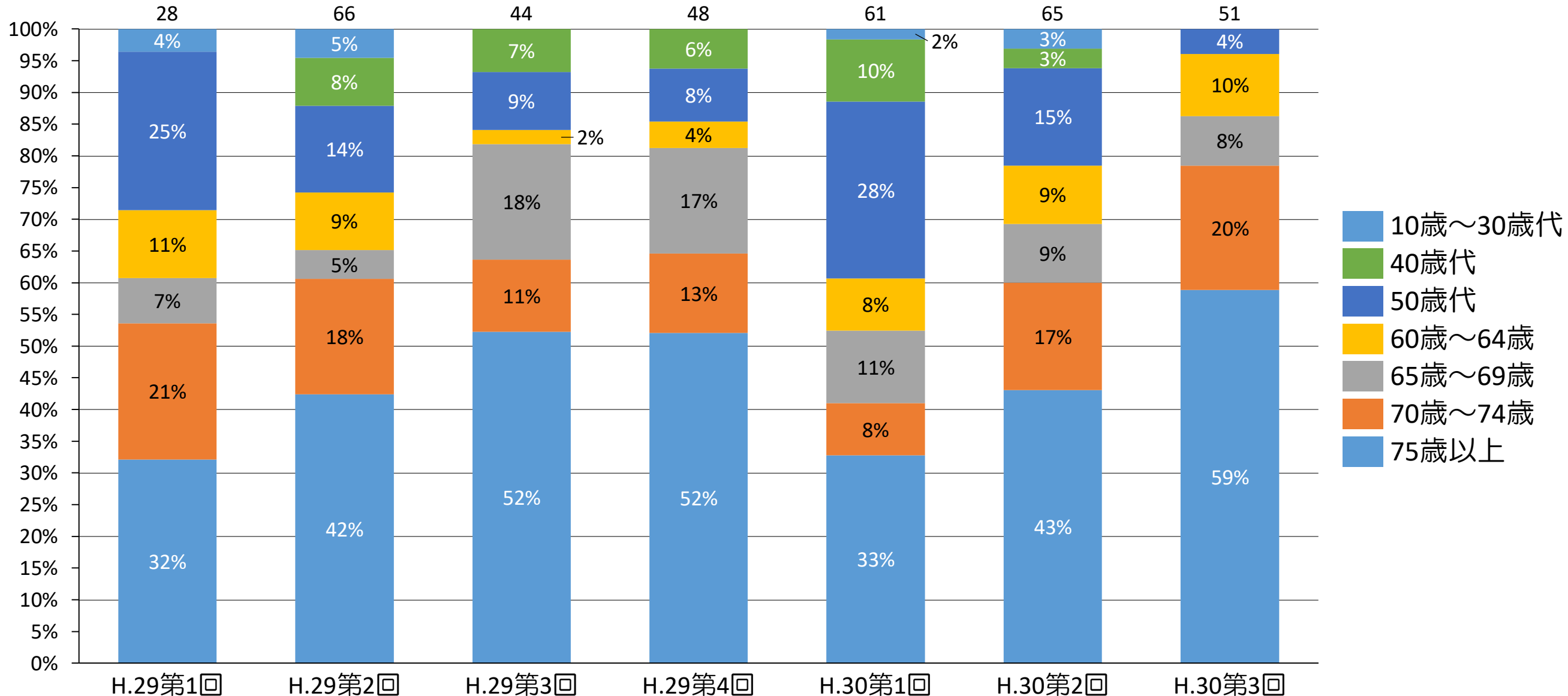


講演テーマ別の参加者の状況（一般区民のみ）

- テーマに「家族」という言葉があるH29第1回、H30第1回は他の回に比べ50歳代の参加割合が高い。

開催回	地区	テーマ
H.29第1回	石神井	『在宅で家族をみとるということ』
H.29第2回	大泉	『医療と介護の賢い選択』
H.29第3回	光が丘	『人生の最後までその人らしく過ごすために』
H.29第4回	練馬	『自分らしく、在宅で生きる』
H.30第1回	光が丘	『家族ががんになったとき～在宅での過ごし方～』
H.30第2回	練馬	『在宅医療ってなんだろう～住み慣れた家での療養をかなえるために～』
H.30第3回	石神井	『ひとり暮らしで在宅医療を選択するという～ここまでできる在宅医療の現実～』

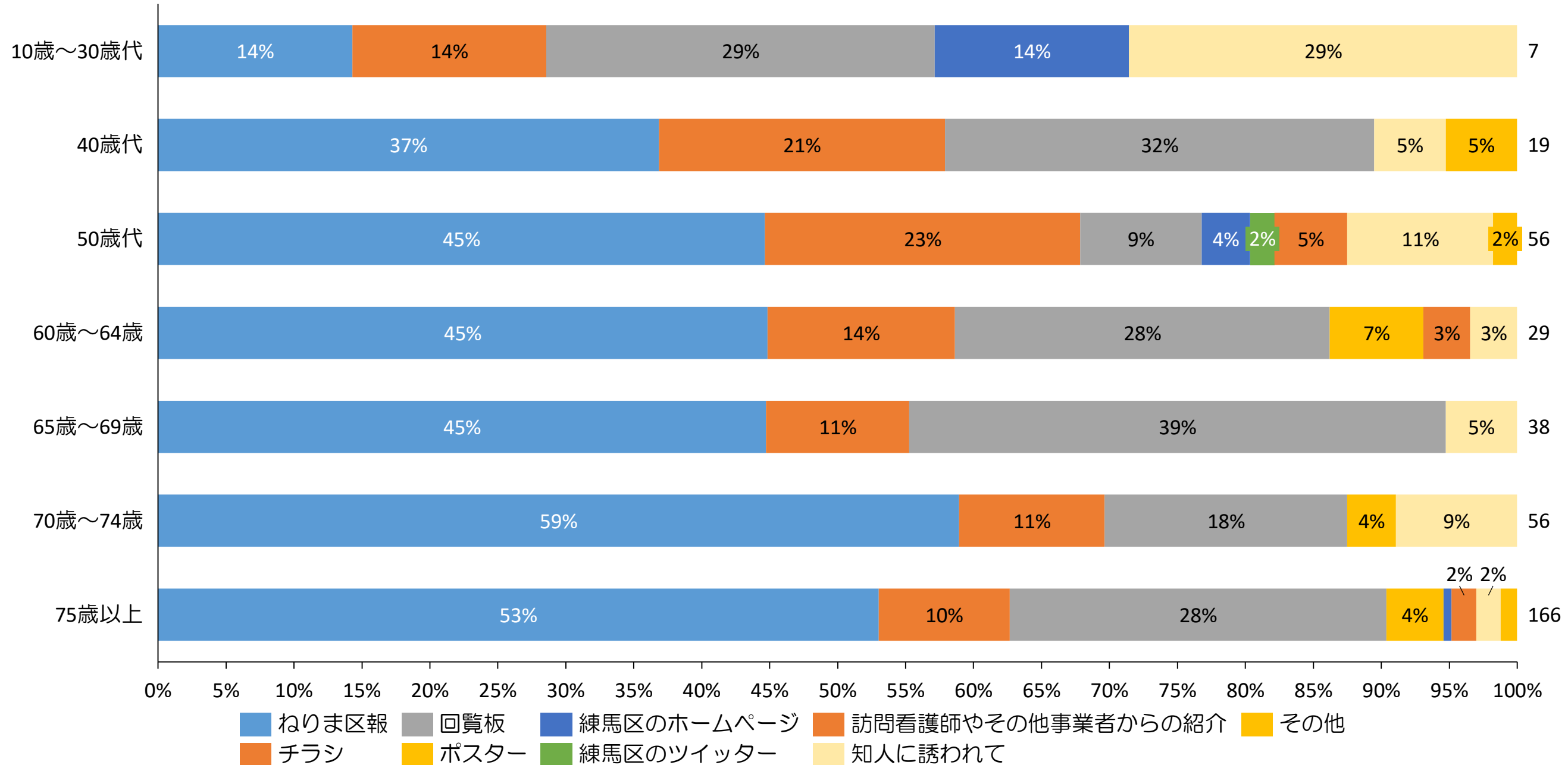
参加者の年代別割合



年代別の講演会開催を認知した方法（一般区民のみ）

- 40歳代以上では「ねりま区報」が最も参加につながった媒体となっている。
- 10歳～30歳代では「回覧板」、「知人の誘い」が約3割で最も多かった。

年代別の講演会開催を認知した媒体

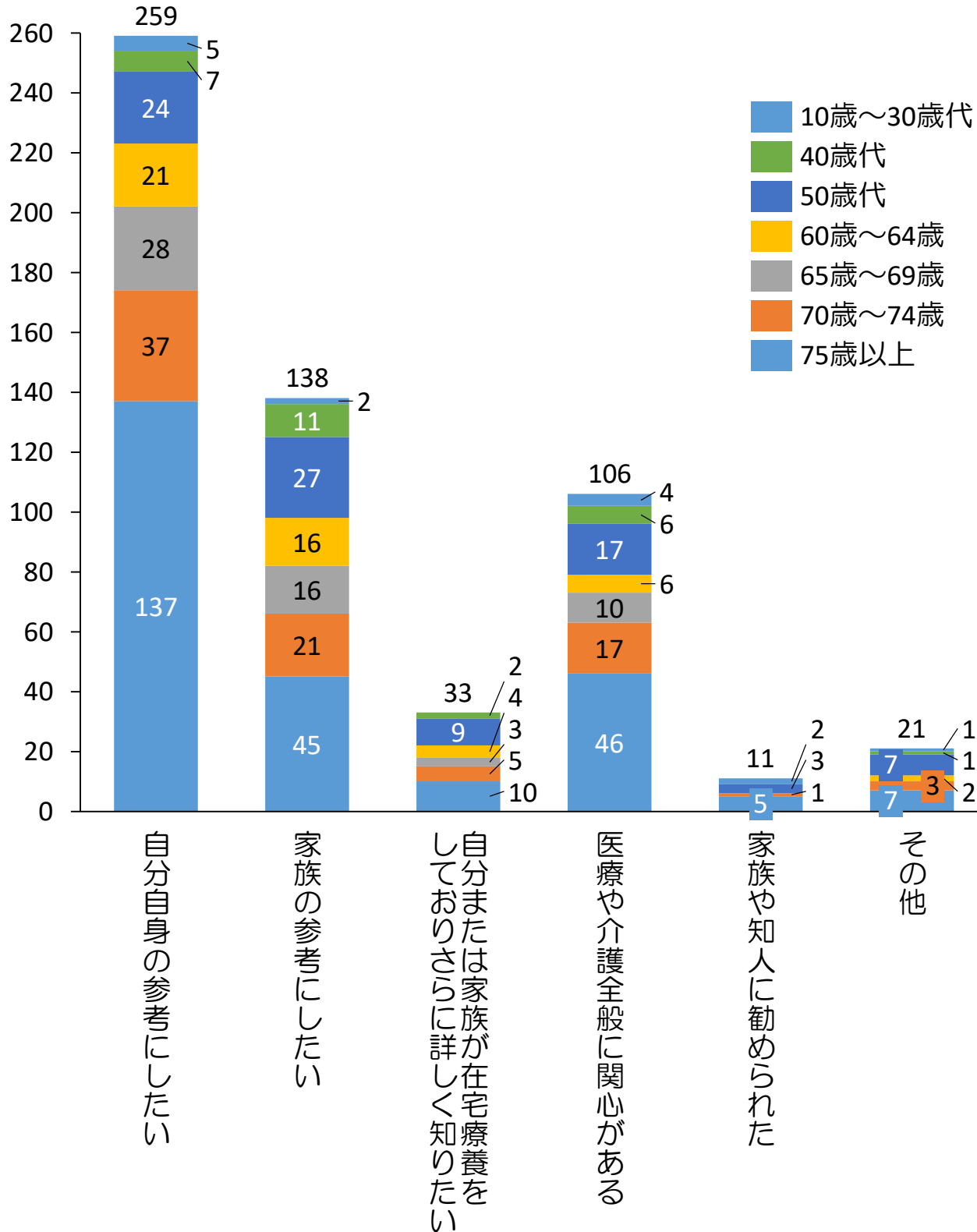


※ 「回覧板」の選択肢は平成29年度第1回には無し
 ※ 「練馬区のホームページ」の選択肢は平成29年度第2回～第4回には無し
 ※ 「ポスター」、「練馬区のツイッター」の選択肢は平成29年度第1回～第4回には無し

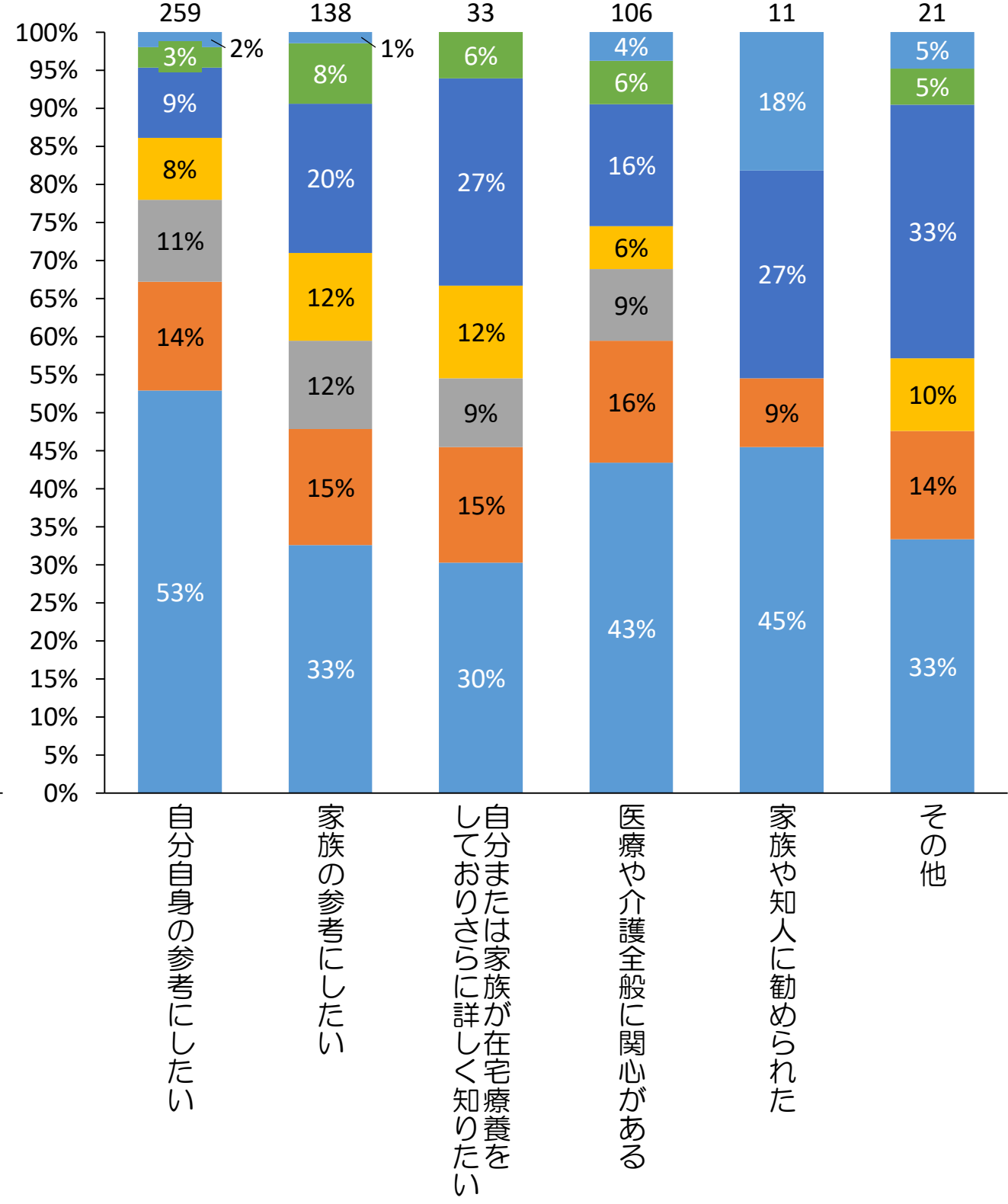
参加しようと思った理由（一般区民のみ）

- 参加しようと思った理由については「自分自身の参考にしたい」との回答が最も多く、ついで「家族の参考にしたい」だった。

年代別の回答数



回答の年代別割合



参加しようと思った理由（「その他」の記載内容）

【業務・ボランティア内容の研鑽のため】

- 町会として介入できる範囲、具体策などがあるか否かを確認したいと考え、参加した。
- 町会での対応ができるかどうか考えたい
- 仕事で参考にしなかった。
- 介護職なので今後仕事に活かして行きたい
- ボランティアをしているのでその参考としたかった。（2名）
- 地域への安心を提供したいために知っておきたい。
- 今後の支援に役立てたい。

【在宅療養への関心】

- 在宅医療に関心がある。
- 在宅医療を以前から考えの中に入れてあった為。
- 老夫婦二人の生活です。どちらかが（特に老妻）入院となった時に、どうしたら、どういう選択があるのか知りたくて。
- 今後の参考のため。
- 現在は支援2ですが、これから次を考えておく為

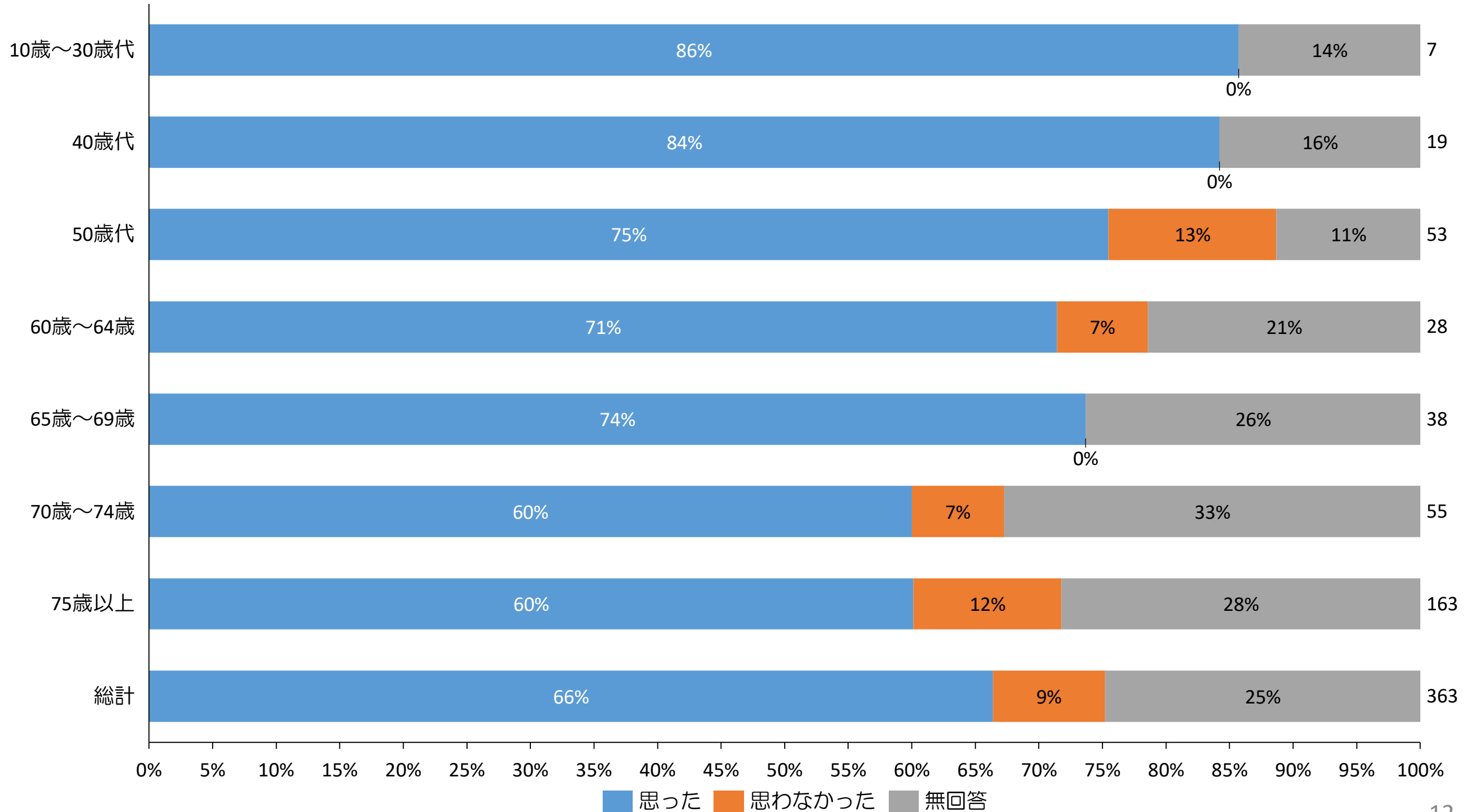
【その他】

- 同居の母の最期を看取っていただいた林先生にお会いしたいと思いました。感謝を込めて。
- 林先生の話をもたまたま聞いたから。（3回目）
- 一人暮らしであり、子供たちが遠いので。
- 知り合いの子供4才が病院でやることができなくなり、在宅を受けて亡くなった。自分の父（76才）が肺がんで抗がん剤4クール目に病院で亡くなった。
- 母の介護（特養入所→入院→死亡）が良かったのかずっと気になっている。
- 家族が最近がんで亡くなった。緩和ケア病院で亡くなったが、それでよかったのか知りたいので参加した。
- 友人から救いの手を求められている

自宅で過ごしたいと思ったか

- 講演を受け「医療や介護が必要になっても自宅で過ごしたいと思った」と回答したのは半数以上だった。
- 特に10歳～40歳代では8割以上が自宅で過ごしたいとの回答だった。

年代別「医療や介護が必要になっても自宅で過ごしたいと思った」割合



自宅で過ごしたいと思ったか（欄外のコメント）

【「思った」と回答した方の欄外コメント】

- すごく思ったわけではない。
- 考えてはいるが、独居でどこまで出来るかが課題です。
- ケースbyケース。
- 家族がいないのでむずかしいです。
- 義母を自宅で過ごさせてやりたいと思った。
- 良い看護師さんにめぐり会えたら幸せだと思う。
- 思ったが無理かなとも思う。
- でも治療費の事が気になります
- 在宅医の先生の人次第です

【「思わなかった」と回答した方の欄外コメント】

- 以前から決めているので。
- 一人暮らしで無理だと思うから。
- 家族に負担をかけたくない。
- 今後に期待したいが。

【無回答の方の欄外コメント】

- どちらとも今の段階では言えない。（4名）
- かならずしも自宅にこだわらない。がんの場合、自宅に戻す傾向で、自宅で過ごさざるを得ないのが現状。訪問看護の方が親切で有難かった。
- その時にならないとわからない。
- 考えどころだと思う。
- 以前から思っている。
- 考え中である。
- 不明です。
- 今後よく考えて決めたい。
- 状況によりけりであるから答えにくいですが、「思った」と答えたい。
- 今の私の状態で自宅は希望するが、子供たちの人生を考えたら迷い、つらい。
- 現在介護中のため、今後、在宅も考えてみたいです。
- 自分自身では自宅で最期を迎えたいと思うが、子供には病院や施設に入れてほしいと伝えると思う。
- 自宅で過ごしたいと思うが、息子夫婦の考えが先になると思う。悩みが付きない。主人は今血液のがんですが、在宅で最期迄と思っている。
- 独居なので分からない。
- 初めて参加し概略が分かった状態なので、今はまだすぐとは思っていない。
- 自宅で過ごしたいと思って参加したが、講演で前向きな印象を得られなかった。
- 難しい。周りの手がどのくらい取れるのか、まだまだ不安。体制が整うことを望む。訪問医も少ないのではないか。
- 家族は子育てで精一杯なので、私が介護が必要になったら施設に入ろうと思っていたが、そのときにならないと分からないと思った（病状や家族の意見を聞いて判断するしかない）。

アンケートの自由回答抜粋

【多く寄せられたご意見】

- 在宅で療養するということが理解でき、在宅療養に関する不安が解消された。
- わかりやすく、有用な情報を得ることができた。
- 地域包括支援センターの役割が理解できた。
- 親がこれから在宅医療を利用する予定であり、学ぶことができた。
- 練馬区で在宅療養を受けたいと思った。
- 家族や地域の方からの支援が必要ということがわかった。
- 事例紹介が良かった。

【要望】

- 今後もこのような講習を望む。
- どこで講演会が開かれるかを知りたい。
- 介護保険、医療保険、公費負担など、仕組みがわかりにくいので、講演会などで利用方法を区民に啓発していただきたい。
- 認知症など他の症例の事例について知りたい。
- おおまかな費用の説明をしてほしい

【その他】

- 子供にこの講演の内容を話す予定。
- とても重い内容で考えがまとまらない。
- 在宅医療が必要になったら演者の医師に診てもらいたい。
- 経済的に在宅医療が実現できるか不安

在宅療養講演会アンケートを受けての考察

○現状では、75歳以上の参加者が多いが、テーマの設定次第では、参加者の年齢層に影響を与えられるのではないか。

○自分は在宅療養を望んでいても、子供たちの考えを尊重する方もいる。子世代に対して、在宅療養を周知していく必要があるのではないか。

○年代によって、講演会を認知した方法が異なる。それぞれの年齢層に向けた周知を考える必要があるのではないか。